

の重みを持った内容を並記するだけの働きしかありません（敢えて言えば、その中でも first で始まるパラグラフが一番重要度が高く、finally で始まるパラグラフは重要度が一番低くなるのが普通です。←英語では、話し言葉であれ 書き言葉であれ、通常、最初に大事なことが出てくる（P. 2 参照）ので、第 3～第 5 パラグラフは、第 2 パラグラフの具体例を示しているだけではないのか、ということが推測できます。

つまり、この英文では一番大事なことは第 1 パラグラフに述べられていて、第 2 パラグラフで「私は 3 つのことを覚えておかなければいけないと思う」と言って、以下にその具体例を 3 つのパラグラフにして示し、最後のパラグラフはそれらを受けて締めくくっている形になっています。このことから、この英文のテーマは第 1 パラグラフ内に書かれているということが推測できるわけです。

このように、英文全体の構造をつかむことにより、どのパラグラフが一番重要なことが書かれているかを知ることができます。

### 手順 3：「大事なことは言い換えて繰り返される」の原則からトピック・センテンスを探る

どの言語においても、大事なことは繰り返されます。しかし、英語では論文などのジャンルを除けば「重要なことは言い換えて繰り返される」のが普通です。前に述べた「英語では、話し言葉であれ書き言葉であれ、通常、最初に大事なことが出てくる」と「英語では、重要なことは言い換えて繰り返される」という 2 つの原則は、パラグラフ・リーディングを進めていく上で非常に重要です。

そういう観点から、改めて大問 5 の英文を見てみましょう。問い(1)も問い(2)も結局は各パラグラフの最初の部分を問うていますので、おそらくはトピック・センテンスを問うていると考えられます。ということは、そのパラグラフ内で一番大事な部分を問うていることとなりますので、空欄に入るべき語（句）は繰り返されている可能性が高いと判断できます。

それでは、その視点から各パラグラフをさっと眺めてみましょう。

#### 第 1 パラグラフ

問い(1)の選択肢の語句の中で、第 1 パラグラフ内に同じ表現か似た表現を持つものを探してみると、“イ Environmental problems”と同じ表現がパラグラフ内にあり、“ウ International understanding”に似た“mutual understanding”もあることがわかります。この 2 つの選択肢が正解である可能性が高いと考えられます。

問い(2)についても同様な観点で、各パラグラフをさっと見ます。

#### 第 3 パラグラフ

選択肢エの中にある“foreign countries”と似た表現の“their people”と“foreign people”が見つかりますので、エが（①）に入る可能性の高い選択肢ではないかと考えられます。

#### 第 4 パラグラフ

選択肢アの中にある“our own culture”と同じ表現が見つかりますので、ア